

## カテキスタ養成講座

### カテキズム要約（177-217 番）

#### 〔総 論〕

教会学校の時間は 30 分から 45 分。1 時間あればよいが、なかなか確保できない。35 分くらいで見渡し、伝えることを目標にしたい。

これから取り上げる箇所を確認。

第一編「信仰宣言」の結びです。信仰宣言を学んできましたが、新しい見方が発見できるかも知れません。今回の講座で 40 個の問題を扱うこととなります。前回担当した時、32 個含まれている部分をカバーしきれなかったので、ますます今回の部分は難しくなります。

#### 箇条書きで見てみる

一緒に勉強する内容を箇条書きしてみました。カテキスタに与えられた時間があまりない場合は、この箇条書きしかホワイトボードに書けないかもしれません。

#### キリスト信者とは[177]

#### 神の民はどのように形づくられているか[178]

#### キリストは教会に聖職位階を制定された[179]

#### 教会の奉仕職の団体的な面[180]

#### 教会の奉仕職は個人的な特徴をもっている[181]

#### 教皇の使命[182]

#### 司教団の務め[183]

#### 司教の教える使命[184]

#### 教皇の不可謬性とは[185]

#### 司教の聖化する奉仕職[186]

#### 司教の統治する任務[187]

#### 信徒の召命とは[188]

#### 信徒はキリストの祭司職に参加する[189]

#### 信徒はキリストの預言職に参加する[190]

#### 信徒はキリストの王職に参加する[191]

#### 奉献生活とは[192]

#### 「教会の使命」における奉献生活[193]

#### 「聖徒の交わり」の意味[194]

#### 「聖徒の交わり」のほかの意味[195]

教会の母マリア（マリアの役割） [196]

マリアは教会を助ける方[197]

マリアに対する崇敬について[198]

マリアは教会の終末的な姿である[199]

罪はゆるされる[200]

教会の「罪をゆるす権能」 [201]

「肉（からだ）」という語の意味[202]

「からだの復活」とは [203]

キリストの復活とわたしたちの復活の関係[204]

死のとき、からだと霊魂などなるか[205]

キリスト・イエスに結ばれて死ぬとは[206]

永遠のいのちとは[207]

私審判とは[208]

「天国」とは[209]

煉獄とは[210]

わたしたちは煉獄の霊魂の清めを助けることができる  
[211]

地獄とは[212]

地獄の存在と神のいつくしみは両立する[213]

最後の審判とは[214]

最後の審判はいつなのか[215]

新しい天と新しい地について[216]

信仰宣言の結び「アーメン」 [217]

「書く」作業は時間がかかる

「書く」作業はわりあい時間がかかるので、「勉強を進める」ということと「書いて理解を深める」ということとは必ずしも両立しません。難しい問題ですが、勉強を進めるためには、あまり書かないほうが進むと思います。学ぶ相手にもよりますが、これも臨機応変です。

生徒に2つのことを学ばせる

体験したことのある人もおられると思いますが、カテキスタが生徒（相手）に教える内容は、2つの面があると思います。1つは、「内容を説明する」ということ、もう1つは「この内容は信じていることができる」と

いうことを伝える。2つの面があると思います。

内容の説明は、教科書をていねいに読み、自分自身が説明できない言葉がないか、見渡しておけば、十分できることです。説明なしに教科書に出てくる言葉は、すでに説明されている頁をあらためて確認したり（例えば「カリスマ」）、自分でどう説明するかを前もって用意しておく必要があります。

もう1つの、「この内容は信じることができる」この部分を伝えるためには、自分自身がその教える内容を信じていると、簡潔に伝えることのできる身近な実例を持っておく必要があります。

たとえば、189番の「信徒もキリストの祭司職にあずかる」という教えは、内容の説明としては教科書で十分解き明かされています。しかしそれだけでは、「祭司職は聖職者の使命なのではないか」という固定観念を拭い去ることはできないでしょう。「キリストの祭司職」を生徒（相手）に身近に感じさせるためには、適切なたとえが必要です。生徒（相手）の家族や友人に当てはめて、家庭の務めや日常の仕事で、自分をささげてキリストの祭司職にあずかっているのだと気づいてもらえば、「この内容は信じることができる」と考えるでしょう。

「この内容は信じることができる」——この部分は教科書には書かれていません。当然信じるべき内容だからです。ただ学ぶ生徒（相手）は初めてキリスト教に触れる人もいるし、いろんな疑問や質問を投げってきます。質問しながら、「この内容は信じることができますか」と間接的に聞いている場合もあるわけです。「内容の説明」と、「この教えは信じることができる」という学びを、生徒（相手）に伝えてほしいと思います。

#### 内容の説明のために——語句説明

「部分教会と普遍教会[180]」・・・「部分教会」とは各教区のこと。具体的には、各教区の司教と結ばれて、信仰と秘跡に生きるキリスト者の共同体のことを意味している。各「部分教会」、つまり教区は、ローマの教会との一致のうちに、完全な普遍性をもつ普遍教会と呼ばれる。

「カリスマ」・・・人々の善のため、世界の必要にこたえるため、とくに教会を築くために、この人々に与えられる聖霊の特別なたまもの。カリスマの識別は教会の教導職の務めである[160]。

[各 論]

177. キリスト信者とはどのような者ですか。

キリスト信者とは、洗礼によってキリストと合体され、神の民の成員として立てられた者です。彼らは、それぞれに固有の立場に応じて、祭司、預言者、王としてのキリストの任務に参加する者とされ、神から教会にゆだねられた使命を果たすよう呼ばれています。彼らの間には、神の子らの尊厳における真の平等が存在します。(洗礼を受けてキリスト信者となりますが、それはすなわち、祭司、預言者、王としてのキリストの任務にあずかる者とされたということなのです)

178. 神の民はどのように形づくられていますか。

教会の中には、神の制定により、叙階の秘跡を受けて、教会の聖職位階を形づくる聖職者がいます。他の人々は信徒と呼ばれます。聖職者の中からも、信徒の中からも、独身生活における貞潔、清貧、従順の福音的勧告を遵守することを宣立することによって、特別のしかたで神に自らを奉獻するキリスト信者が出ています。

179. なぜキリストは教会の聖職位階を制定されたのですか。

キリストは、ご自分の名において神の民を牧するという使命を帯びた、教会の位階を制定され、そのために、これに権威をお与えになりました。聖職位階は聖職者、すなわち司教、司祭、助祭によって形づけられます。叙階の秘跡により、司教と司祭はその奉仕職を果たすうえで、頭であるキリストとその名において働きます。助祭はことばと典礼と愛の奉仕（ディアコニア）において神の民に仕えます。

180. 教会の奉仕職の団体的な面はどのように行使されますか。

どの司教も自らの奉仕職を、司教団の一員として、教皇との交わりのうちに果たします。各司教は普遍教会に対する配慮の責任を教皇と分かち合います。司祭たちも司教との交わりのうちに、彼の導きのもとで果たします。

181. なぜ教会の奉仕職は個人的な特徴をもっているのですか。

キリストは、個人的なかかわりの中で招き、使命を授けてくださったので、叙階の秘跡を受けた聖職者は、各自キリストの前で責任を負っています。

182. 教皇の使命とは何ですか。

教皇は、ローマの司教、聖ペトロの後継者であり、教会一致の恒久的な目に見える根拠であり、基礎です。キリストの代理者、司

教団の頭、全教会の牧者です。教皇は、神の制定により、教会に対して十全で、最高、直接、普遍の権能をもっています。

183. 司教団の務めはどのようなものですか。

司教団も、教皇との交わりのうちに、教会に対して最高の十全な権能を行使します。

184. 司教は教える使命をどのように果たしますか。

司教たちは、教皇との交わりの中で、キリストの権威を付与された者、使徒伝来の信仰の真正な証人として、忠実に、また権威をもって福音を告げ知らせる務めをもっています。神の民は、超自然的な信仰の感覚を通して、教会の生きた教導職の指導のもとに、信仰を損なうことなく固く守ります。

185. 教皇の不可謬性はどのようなときに生じますか。

不可謬性は、ローマ教皇が教会の最高の牧者の権威を用いて、あるいは司教団が教皇との交わりのうちに――とくに公会議で――、信仰もしくは道徳に関する教義を決定的に宣言する場合に生じます。また、教皇と司教たちが、通常の教導職において、一致してある教義を決定的なものとして提示する場合にも生じます。すべてのキリスト信者は、信仰による恭順をもって、このような教えに従わなければなりません。

186. 司教は聖化する奉仕職をどのように果たしますか。

司教は、ことばや秘跡の奉仕職、とくに聖体の奉仕職を通して、また自らの祈り、模範、働きを通して、キリストの恵みを分配しながら教会を聖化します。

187. 司教は統治する任務をどのように果たしますか。

すべての司教は、司教団の一員として、教皇と一つに結ばれた他の司教たちとともに団体的に、すべての部分教会と教会全体に対して配慮します。司教には一つの部分教会がゆだねられます。司教は、よい牧者であるキリストの名において、全教会との交わりのうちに、ペトロの後継者の導きのもとで、自らに固有の、通常の、また直接の聖なる権能から生じる権威をもって統治します。

188. 信徒の召命とはどのようなものですか。

信徒に固有の召命とは、神に従って現世的なことがらを照らし、秩序づけながら、神の国を追求することです。信徒は、このようにして、洗礼を受けたすべての人に向けられている、聖性と使徒職への召命を実現します。

189. 信徒はキリストの祭司職にどのようにあずかりま

すか。

信徒は、祈りや使徒職への取り組み、家庭生活や日常の仕事、苦悩や心身の安らぎも自分の生活を、とくにミサの中でささげることによって、キリストの祭司職にあずかります。このように、キリストにささげられ、聖霊によって聖別されている信徒も、この世そのものを神に奉獻するのです。

190. 信徒はキリストの預言職にどのようにあずかりますか。

信徒は、キリストのことばを信仰のうちにつねによりいっそう受け入れ、生活のあかしとことば、福音宣教活動と要理教育をもって、キリストの預言職にあずかります。この福音宣教活動は、ふつうの現世的な状況の中で果たされることによって、とくに効力を発揮します。

191. 信徒はキリストの王職にどのようにあずかりますか。

信徒は、自分自身の中で、また世において、罪に打ち勝つ力をキリストから受けているので、自己放棄と聖なる生活とによってキリストの王職にあずかります。信徒は人間の現世的活動や社会の諸制度に道徳的価値を浸透させます。(参考：聖書週間 2018 年、酒井司教様)

192. 奉獻生活とは何ですか。

教会によって認められた生活の身分です。それは、キリストの特別な呼びかけに対する自由な応答です。奉獻生活の身分にある者は、この応答を通して、自らを神に全面的にささげ、聖霊の働きのもとで愛の完成へと向かっていきます。

193. 奉獻生活は教会の使命にどのような貢献をしますか。

奉獻生活は、キリストと兄弟たちに自分を全面的に与えることを通して教会の使命に参加し、天の国の希望をあかしします。

194. 「聖徒の交わり」という表現は何を意味していますか。

この表現は、第一に、教会の成員すべてが共通して聖なることながら (sancta) に参加していることを指します。聖なることとは、信仰、秘跡、とくに聖体、カリスマ、その他の霊的たまものです。交わりの根源には愛があります。「自分の利益を求めず」(一コリント 13・5)、キリスト信者が「すべてを共有し」(使徒言行録 4・32)、自分の物質的財産さえももっとも貧しい人々のために用いるよう駆り立てる愛です。

195. 「聖徒の交わり」という表現はこのほかに何を意味していますか。

この表現は、聖なる人々 (sancti) の交わり、すなわち死んで復活されたキリストに恵みによって結ばれた人々の交わりをも指します。生きている人 (地上の教会)、自分を清めつつある人 (煉獄の教会) すでに神の栄光を享受し、わたしたちのために執り成している人 (天国の教会) がいます。これらすべての人がともに、三位一体の賛美と栄光のため、キリストのうちにただ一つの家族である教会を形づくっています。

196. 幸いなるおとめマリアはどのような意味で教会の母なのですか。幸いなるおとめマリアは、恵みの領域において、教会の母です。それは、神の子、教会の頭イエスをマリアが生んだからです。十字架上の「見なさい。あなたの母です」(ヨハネ 19・27) ということばでマリアを母として示されました。

197. 聖なるおとめマリアはどのように教会を助けますか。御子の昇天の後、おとめマリアはその祈りによって、歩み始めた教会を助けました。天に上げられてからも、マリアはその子らのために執り成しを続け、すべての人のために信仰と愛の模範であり続け、あふれるほど豊かなキリストの功德からほとぼしり出る救いの恵みを彼らの上に注ぎ続けます。キリスト信者は、将来、自分に与えられるであろう復活の姿と先取りをマリアの中に見、マリアを弁護者、扶助者、仲介者として呼び求めます。

198. 聖なるおとめマリアに対してどのような崇敬がなされますか。

特別な崇敬がなされます。しかし、これは至聖なる三位一体だけに向けられる礼拝の敬い方とは異なります。このような特別な尊敬という敬い方は、とくに、神の母にささげられた典礼や、福音全体の要約である聖なるロザリオなどの中で表されます。

199. 幸いなるおとめマリアは、どのような意味で教会の終末的な姿なのですか。

すでにからだと靈魂において栄光を受けたまったく聖なるかたであるマリアを見つめながら、教会はマリアのうちに、自らがこの地上でそうあるべきものとして呼ばれている姿、天の祖国において取るであろう姿を観想します。

200. 罪はどのようにゆるされますか。

罪のゆるしのための第一の主要な秘跡は洗礼です。洗礼の後に犯す罪のために、キリストは和解すなわちゆるしの秘跡を制定なさいました。洗礼を受けた者は、ゆるしの秘跡を通して神と、また教会と和解させていただきます。

201. なぜ教会は罪をゆるす権能をもっているのですか。キリストご自身が教会にこれをお与えになったからです。

「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたがゆるせば、その罪はゆるされる。だれの罪でも、あなたがたがゆるさなければ、ゆるされないまま残る」(ヨハネ 20・22-23)。

202. 「肉」という語は何を意味しますか。それにはどのような重要性がありますか。

「肉」は、弱く死すべき者としての人間を表します。「肉は救いの要です」(テルトゥリアヌス)。事実、わたしたちは肉の造り主である神を信じます。肉をあがなうために肉となられたみことばを信じます。肉の創造とあがないの完成である、肉(からだ)の復活を信じます。

203. 「からだの復活」とは何を意味していますか。

人間の最終的な状態がからだから分離された霊魂だけの状態ではなく、わたしたちの死すべきからだもいつの日か生き返るということを意味しています。

204. キリストの復活とわたしたちの復活の間にはどのような関係がありますか。

キリストが真に死者の中から復活し、永遠に生きておられるように、終わりの日に、キリストご自身がすべての人を朽ちることのないからだへ復活させていただきます。「善を行った者は復活していのちを受けるために、悪を行った者は復活して裁きを受けるために出て来る」(ヨハネ 5・29) のです。

205. 死のとき、わたしたちのからだと霊魂などなるのですか。死のとき、霊魂とからだ分離し、からは腐敗します。一方、不滅である霊魂は神の裁きを受けにいけます。そして、主が再び来られ、からだを変容させられた姿で復活するとき、そのからだ再び一つになるのを待つのです。どのように復活が実現するかは、わたしたちの想像と知性の能力を超えることです。



206. キリスト・イエスに結ばれて死ぬとはどのような意味ですか。

大罪をもたずに、神の恵みのうちに死ぬという意味です。キリストを信じる者は、その模範に従って、自らの死をこのように御父に対する従順と愛の行為へと変容させることができます。「次のことばは真実です。『わたしたちは、キリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きるようになる』」(二テモテ 2・11)。

207. 永遠のいのちとは何ですか。

永遠のいのちとは、死後、すぐに始まるいのちのことです。このいのちは終わることがありません。これに先立って、生者と死者の裁き手であるキリストによって一人ひとりに対する私審判が行われます。永遠のいのちは、最後の審判によって承認されます。

208. 私審判とは何ですか。

すぐに報いを決定するために行われる裁きのことです。(ここで天国か煉獄か地獄かが決まります。)

一人ひとりがその死のときから、不滅の靈魂において、自らの信仰とわざに基づき、神から報いを受けます。この報いとは、すぐに、あるいはふさわしい清めの後に天の至福に入ること、もしくは地獄において永遠の苦しみを受けることです。

209. 「天国」とは何を意味していますか。

「天国」とは、最高の、そして最終的な幸福の状態を意味しています。神の恵みのうちに死に、もはや清めを必要としない人は、イエスとマリア、諸天使と聖人たちの周りに一つに集められます。こうして、彼らは天の教会を形づくります。そこで、彼らは神を「顔と顔を合わせて」(一コリント 13・12) 見、至聖なる三位一体との愛の交わりのうちに生き、わたしたちのために執り成すのです。

210. 煉獄とは何ですか。

煉獄とは、神との親しさの中に死ぬ一方で、永遠の救いは確実であるものの、天の至福に入るために、まだ清めを必要とする人々の状態です。

211. わたしたちはどのようにして煉獄の靈魂の清めを助けることができますか。

まだ地上の旅路を歩んでいるキリスト信者は、聖徒の交わりの力により、煉獄の靈魂のために祈りをささげること、とくに聖体のいけにえをささげることによって、また

施し、免償、償いのわざをささげることによって、彼らを助けることができます。

212. 地獄とはどのようなものですか。

地獄とは、自らの自由な選択によって大罪のうちに死ぬ人々の永遠の責め苦のことです。地獄の主要な罰は、神から永遠に離れることにあります。ただ神においてのみ、人間にはいのちと幸福があり、これらのために人間は創造され、これらを切望しているというのにです。キリストはこの地獄の現実を次のことばで表現しておられます。「呪われた者ども、わたしから離れ去り、……永遠の火に入れ」(マタイ 25・41)。

213. 地獄の存在と神の限りないいつくしみとはどのように両立するのですか。

人間がその死の瞬間まで、神のあわれみ深い愛を拒み、大罪のうちに執拗にとどまるならば、その人自身が完全に自主的に、進んで神との交わりから自分を除外しているのです。

214. 最後の審判とはどのようなものですか。

最後の審判(公審判)は、至福のいのちか、それとも永遠の罰かの判決にあります。この判決は、主イエスが生者と死者の裁き手として再臨されるとき、ご自分の前に一堂に集められた「正しい者と正しくない者」(使徒言行録 24・15)に対して宣告されます。この最後の審判の後、復活したからだは、霊魂が私審判において受けた報いにあずかります。

215. 最後の審判はいつ行われますか。

最後の審判は世の終わりに行われます。その日、その時は、神だけが知っておられます。

216. 新しい天と新しい地の希望とは何ですか。

最後の審判の後、腐敗への隷属から解放された同じ万物が、「新しい天」と「新しい地」(二ペトロ 3・13)の始まりとともに、キリストの栄光にあずかります。こうして、神の国が完成します。

217. わたしたちの信仰宣言を結ぶ「アーメン」ということばは、何を意味していますか。

ヘブライ語のことば「アーメン」は、決定的な「アーメン」であられるかた(黙示録 3・14)、主キリストへの全面的な委託のうちに信じると宣言したことに対する、わたしたちの信頼に満ちた、全面的な「然り(はい)」を意味しています。(「はい」は「はい」)